

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 外部評価結果報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2970100281
法人名	社会福祉法人 晃宝会
事業所名	グループホーム あじさい園
所在地	奈良市茗荷町805番地1 (電話)0742-81-1393
評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	2008年7月14日

## 【情報提供票より】(平成20年6月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 9 月 18 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	10 人 常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7、6

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造陸屋根 平屋建 1階建ての 1階 ~ 1階部分
------	-------------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 500,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 1ヶ月 2,000 円
	1日(1,500円)		

### (4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	塩田医院 ・木村歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

奈良市東部の自然豊かな山間にあり、車では、市街地から15分で来れる。特別養護老人ホーム、ケアハウスと同じ敷地内にあり、平屋でバリアフリー構造になっている。ホームの理念は、一人ひとりの生活リズムを大切に、地域と連携しその人らしく生活できる事を目標にし、実践している。ホームでは職員に見守られながら、利用者さん同士の会話も多く、表情も明るく穏やかに生活されている。食事の手伝いや洗濯など出来る事をされており、生きがい、楽しみになっている。運営推進会議では、地域の状況やあじさい園への希望を聞いたり、家族さんの話しなどする事で交流を深め、サービスの質の向上に活かしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	特に改善点はない。地域包括センターとの関わりを密接にし、情報交換をしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を職員間で話し合う事で、気づいたことをサービスの改善につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は年に2回~3回開催しており、ホームからは利用者の暮らしや家族からのお話し等、現状を報告し、地域からは、地域の抱える問題を話し合い連携を大切にしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	毎月ふるさと新聞を発行し、利用者の様子、行事等報告している。玄関には意見箱を設置し、家族の声を聞くようにしている。家族会を開き、多くの方に参加していただき、意見を聞く機会をもうけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の清掃活動や運動会に参加している。また、小学校や幼稚園とも交流があり利用者も楽しみにしている。法人の行事にも、参加していただき交流を深めている。

## 2. 外部評価結果報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人と共通の運営理念に、一人ひとりの生き方を尊重し、地域との連携を大切にすることが謳われている。ホーム独自には生活のリズムを大切に、ゆっくり見守り待つことを大切に支援することを謳っており、パンフレットにも明記されている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼でグループホームの理念を唱和している。また、運営会議や全体会議でもホームの理念を具体的に話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の行事や清掃活動に参加している。田原ホットステーションに行き買い物をし地域との交流を深めている。保育所の園児との交流もあり利用者達も楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果を話し合い、基本方針を共有し改善に努めている。法人職員とも全体会議等で意見交換を図っている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年2～3回開催され家族、民生委員、東部包括支援センターの方々が参加し利用者の暮らしや、家族の意見、地域の抱える問題点等話し合い連携を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターや市役所へ運営推進会議の議事録や事故報告の提出をし助言をもらいながらサービスの向上に活かしている。地域との交流を通して情報や理解を得て暖かく見守ってもらっている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ふるさと通信を発行しホームの活動を報告している。健康状態の異常等、その都度報告し相談しながら対応している。家族会を開き家族の意見を聞く機会を設けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付窓口が記載されている。玄関に意見箱を設置し、又来園時や電話等で家族の意見を聞く努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率が良く、利用者との馴染みの関係に配慮している。異動は少なくして各ユニット毎に固定する事で利用者との信頼関係を深めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修を積極的に受講している。研修書類や議事録の提出し回覧、全体会議での報告もなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会の研修に参加したり、市内のグループホームへの見学、研修をし交流を深め、情報交換をしながらサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	長年馴染んできた生活習慣や趣味を家族から聞き取り、スムーズに馴染めるように配慮している。見学や、体験入所をしてもらい徐々にサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や、野菜、花作りを教えてもらったり、行事外出等と一緒に計画をしながら利用者の希望を聞ける機会を多くつくるように努力し共に楽しんでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの気持ち、思いや家族の意見も積極的に聞き、日々の生活を大切にしている。利用者同士の交流を見守りながら支援している。利用者同士仲よく思いやり、支え合いながら、穏やかに過ごされている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	これまでの生活歴を本人、家族より聞き取り、職員、ケアマネージャーと話し合い、介護計画を作成し、家族とも相談している。介護目標は具体的で解りやすく立てられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直しを行い、介護職員、ケアマネージャーと話し合い、家族にも相談し、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特養への移行やケアハウスからグループホームへ、など状況に応じて支援しており、デイサービスの訪問や交流もおこなっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による月1回の定期健診と必要に応じて往診もうけており、その都度家族に報告し相談のうえ、適切な医療がうけられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の希望を尊重し、医師とも話し合いながら対応しており、特養の看護師による相談支援もうけている。	○	ターミナルケアについて支援の理念を契約書等に取り決めておく事が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのペースに合わせた声かけをしながら、支援している。居室には手づくりのネーム札が掛けられ、トイレ入り口には暖簾が掛けられプライバシーに配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ち、ペースを大切にしながら、利用者同士の交流を見守りながら支援している。利用者同士お話しもされており、お互い思いやりながら、穏やかに過ごされている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳、片付けなど利用者のできる事を、職員と共におこなっている。食品の買出しも利用者の希望を聞き、買い物に出かけたり、食事を楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	定期入浴日は週三日になっているが、いつでも入浴できるよう声かけをして、入浴を勧めている。月に一回程度は希望に合わせて、スーパー銭湯に行ったりしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の手伝い、洗濯もの干しや片付け、庭の野菜づくり、草花づくり等一人ひとりの生活歴を生かした支援をしている。週に一回は近くのホットステーション(地域の出店で野菜、お餅等販売)へ買い物に行き地域とのかかわりもできている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望によって、散歩や買い物に出かけている。家族に声かけし、カラオケや苺狩りなど一緒に出かけるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居間、居室の窓も明るく開放されており、庭に出て洗濯物を干したりされている。玄関の鍵はさされておらず、職員の見守りがされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回～3回事業所全体の防災訓練を行い、その後グループホーム個別の訓練も行い非常食も備えている。地域の消防署とも連携し、緊急時対応のマニュアルも作成し、活用出来るようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士によるカロリー、栄養のバランスを考えた献立を一人ひとりの状態に合わせて、調理された食事を美味しく食べられるよう支援している。食事摂取量、水分量も記録し支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の居間は窓も広く、木の植え込みや田んぼの景色が見渡せる。天井は吹き抜けになっており、風通しもよく、ブラインドを使用し、光の調整も配慮している。テーブルに花が活けられており、お話しされたりして、穏やかに過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの鏡台、机、椅子等持ち込まれており、写真、人形も飾られており、窓からの眺めもよく、本人が居心地よく過ごせるようになっている。家族の面会は居室でゆっくり過ごされている。		